

第4回チバリョー中野

平和・自治・環境・福祉とことんゆんだく

2007年7月29日(日)

於：東中野ポレポレ坐

参加報告書

東京清掃中野支部参加者：染、洞下、塩田、近澤、米脇

参院選の投票日と重なった7月29日(日)、東中野のポレポレ坐で『第4回チバリョー中野』が開催されました。

中野区職員労働組合を始めとして、中野区内の反戦、平和運動を展開しているグループや障がい者支援グループなど、多くのグループが参加した『チバリョー中野』は、それぞれの活動内容を紹介、学びあいながら、労働組合や市民運動の地域における連帯・共闘を確認する集会となりました。

(「チバリョー」とは頑張ろうという意味の沖縄方言)

東京清掃労働組合中野支部初参加

中野区職員労働組合が主催する『チバリョー中野』は、沖縄の反戦ツアーに参加した中野区職労の方たちが「沖縄の反戦運動に連帯し、私たちが中野の地で運動を」という思いでスタートしたものです。平和運動だけにとどまらず、自治や環境、福祉の問題を共に考える集会にしようと、多くの仲間たちに参加を呼びかけながら回を重ね、第4回となった今回、わが東京清掃労働組合中野支部にも中野区職労の川嶋委員長から「ごみ問題は環境問題、清掃労組がこの集会に参加することは、とても相応しいと思う。是非一緒にやりましょう」と参加のお誘いを受けました。



開会にあたって主催者を代表して挨拶する川嶋中野区職労委員長



支部からの参加者、設営を終えて開会前に記念撮影

川嶋委員長が言うように「ごみ問題」はいまや社会的な課題です。区民生活と密着した清掃事業の最前線で、ごみの収集・運搬という業務を担う職員として、日々の作業時以外にも区民の方たちと直接ふれあいながら『ごみ問題』を考える集まりを持つことは、わが組合にとっても大きな課題の一つです。また、平和や福祉といった課題に取り組まれている多くの方たちと知り合うことの出来るまたとない機会でもあります。お誘いをいただいたことに感謝しながら、喜んで参加することを決めました。

パネル展示と分別ゲーム

当日までに数回にわたって実行委員会が開催されました。会場となるのは、東中野の『ポレポレ坐』一階。普段は喫茶店を営業しながら、様々なグループの催し物にもスペースを貸している場所です。

各グループから代表者が参加した実行委員会

は、各グループの展示物やゆんたくコーナーでの演目について打ち合わせを重ねました。ゆんたくコーナーの『ゆんたく』とは、沖縄の方言で「おしゃべり」という意味です。各グループに時間を割り振り、会場中央のスペースで客席とのコミュニケーションを図りながら、活動内容を紹介してもらおうという趣向です。

わが組合は、普段の仕事の紹介や容リプラの資源回収の啓発パネルを作成・展示することにし、ゆんたくコーナーでは、小学校や地域センターでの環境学習の際の『分別ゲーム』をやることを決めました。

子ども達を相手にした分別ゲームは数多くやっていますが、大人を相手にした分別ゲームはほとんど経験がありません。皆さん積極的に参加いただけるのだろうか、盛り上がってもらえるのだろうか、一抹の不安を抱えながら当日までの準備が続きしました。

当日、12時30分からのゆんたくコーナーは、「かみさぎ唄三線会」の沖縄民謡の三線の音色と歌声から始まりました。



(左)「かみさぎ唄三線会」による三線の音色と歌声
(右)「すばる工房」による合唱



以降も精神障がい者の支援グループ「すばる工房」による合唱や「わかみやクラブ」「HELEN-HELEN」の楽器演奏、「元気な図書館」による絵本の朗読と、それぞれのグループの活動紹介に合わせた特色ある演目（ゆんたく）が続きしました。



(左)「元気な図書館」による絵本の朗読



(右)「一坪反戦地主会関東ブロック」による沖縄報告と討論

成功!? 分別ゲーム

わが組合のゆんたく「分別ゲーム」に割り振られた時間は15分。通常、小学校でやる時は20～30分をかけてやるもの。忙しくなるのを覚悟しながら、ゲームの説明から始まりました。

皆さんが積極的にゲームに参加してくれるかといった心配も杞憂に終わり、呼びかけに対して一斉に手にしたごみを「可燃」「不燃」「資源」に分けたコンテナに入れてもらいました。

中野区では一部地域で容リプラの資源回収が始まっていることから、「プラの資源回収が始まっている地域では不正解。始まっていない地域では正解になります」といった説明に笑い声も起きながら、終始和やかな雰囲気で行進していきました。限られた時間の中で「容リプラの資源回収」「サーマルリサイクルのモデル事業の開始予定」の説明などは舌足らずにはなりましたが、数人の方から質問が出されるなど、ごみ問題に対する区民の関心の高さが感じられました。



(上)分別ゲームの答え合わせに「へー」の声も (中)説明を聞く参加者
(下)皆さん積極的にゲームに参加していただきました

「清掃現場の最前線で働く職員として、ごみ問題、環境問題について、これからも一緒に考えていきましょう」という結びの言葉で、無事に終了。終了後、客席に座っていると「面白かったですよ。うちの職場に来てやってほしいね」といった声や

「意外と勘違いしていたことがあって、勉強になりましたよ」といった声もいただき、思っていた以上に盛り上がる事が出来ました。

求められる自治研活動

初めて参加した「チバリョー中野」は学生時代の文化祭の雰囲気を出して楽しいものでした。と同時に多くの仲間が平和、環境、福祉といった課題に真剣に取り組まれ、その活動内容を知る良い機会にもなりました。

私たちが担う清掃事業は、区民にとって安全で安心な住環境を提供するという区民生活に密着した公共サービスです。

「規制緩和」「構造改革」の名の下に、多くの公務・公共分野が解体されています。民間活用を決して否定するわけではありませんが、営利を目的とする「市場原理主義」に委ねることで、多くの職場が荒廃し、安全性という本来であれば最優先に考えられなければならない問題が二の次になっています。

私たち労働組合も自らの労働条件を守るだけの運動に留まることなく、社会的課題に対して自ら

の主張を幅広く発信しその正当性を訴える、地域と密着した社会的な存在としての労働組合の姿勢が求められています。

今回は、中野区職労主催の集会への参加でしたが、この経験を活かしながら今後はわが支部独自に自治や平和、福祉といった課題を考える自治研究集会を開催することが求められています。

ゆんたくプログラム

- 12:30～ 開始
- 12:35～ かみさぎ唄三線会
- 12:50～ 中チャン基金
- 13:05～ すばる工房
- 13:30～ わかみやクラブ
- 13:40～ HELEN-HELEN
- 14:05～ げんきな図書館
- 14:35～ 東京清掃労働組合中野支部
- 14:50～ ジュゴン保護キャンペーン
- 15:10～ 憲法擁護
- 15:30～ 一坪反戦地主会
- 16:00～ 終了

参加したみなさん

NPO法人 げんきな図書館

2003年に「もっと楽しく、人と人が出会える図書館」「まちづくりや市民活動を支援する地域の情報拠点」を目指し発足しました。

ジュゴン保護キャンペーンセンター

沖縄・本島東海岸辺野古の人魚のモデルといわれるジュゴンが棲む海を保護区設定に求める活動をしています。

中野区原爆被害者の会(長広会)

昭和33年より「再び被爆者をつくらせない!」と被爆体験を伝える活動などを通し様々な平和事業に参加しています。

障害者地域生活支援事業(わかみやクラブ)

2003年に障害児の放課後クラブとして誕生。障害の有無に関わらず子ども達が地域の方々との交流を通じて充実した余暇を過ごせるよう、皆でアイデアを出し合って遊んでいます。

HELEN-HELEN

中野区を中心に障害者施設、高齢者施設等で慰問演奏を行っているボランティアバンドです。

沖縄に木を植えよう。中チャン基金

沖縄からもらったすばらしい音楽、楽器、踊りのお返しとして、基金を設け中野から沖縄に木を植え始めました。

憲法擁護・非核平和を進める中野区民の会

1991年より中野区で憲法を守り非核を訴える活動をし

ています。憲法の唱える不戦の誓いを広げたい。

すばる工房

1992年にすばる運営委員会が主に精神障害者の方達を対象に設立。作業などを通じて自分に合った社会参加のあり方を考えたり、それぞれの目的をもって工房を利用しています。

沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

沖縄反戦地主を支援するため嘉手納・普天間両飛行場の一部を共有地にしています。更に辺野古への新基地建設に反対する活動をしています。

かみさぎ唄三線会・パーラックウチャー上鷺会

上鷺宮地域に新しい音楽文化をおこそうと、7年前から親子でエイサーや沖縄民謡をやっています。

東京清掃労働組合中野支部

清掃行政の第一線でごみの収集と運搬に携わる職員として、地域の方たちとの交流を通じ、「ごみ問題」や「環境問題」を一緒に考えていきたいと思えます。

中野区職員労働組合

今年6月に結成60周年事業として「公害の原点」といわれる足尾銅山に苗木を植える活動を行いました。

あとリエふあんとむ

1982年より精神障害者共同作業所として活動を続けています。今年はNPO法人設立等、あらたな精神保健福祉活動を展開しています。